



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア労働事情：建設事業

(7月22日付アラブ・ニュース紙)

7月22日付アラブ・ニュース紙は、サウジアラビアの労働事情について、サウジ国家建設委員会のラエド・アクエイリ委員の発言について報じている(注:サウジ国家建設委員会とは、サウジアラビア国内の建設産業育成に関し議論する機関である)。

1. 外国人労働者のイカーマを更新するための最初の猶予期間が終了する(7月3日)までは、サウジアラビアの建設事業契約数は25万件であったが、そのうち、小規模の請負業者と契約した9万件は解消され、多くの大型事業に影響を与えた。
2. この影響は、猶予期間の終了の後、数ヶ月にわたって続くのではないかと懸念されている。請負業者は派遣会社から業務を実行するための専門家を雇う必要がある。
3. 4,000億SRの予算をかけた5カ年計画(2009~2014)のほとんどの事業が完了していない。さらなる危機を回避するために、請負業界に十分な労働力の確保を早急に行う必要がある。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799